

校名：宇都宮大学 教育学部 附属特別支援学校

所在地：〒320-0061 栃木県宇都宮市宝木町 1 丁目 2592 番地 電話番号：028-621-3871

記載日：平成 28 年 4 月 26 日 記載者：桑川 剛士 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

- 明るいあいさつが行き交う学校
- 互いに思いやりをもった児童生徒
- 本校教育への理解が深く、PTA 活動に積極的な保護者
- 高い専門性と指導力をもち、前向きで熱心に指導・支援に取り組む教師

貴校の卒業生の活躍状況について：

- 「卒後支援」・・・全ての卒業生に対して実施（期間は原則 3 年間）
- 進路先訪問・聞き取りによる状況把握及び指導・支援
- 3 年以降あるいは期間内であっても必要に応じて、障害者就業・生活支援センターやハローワーク等の関係機関と連携して指導・支援に当たり、進路先への定着を図る。
- 過去 5 年の卒業生では、平均して毎年 3 名程度（8～10 名中）が一般企業に就職しており、若干の離職者のはあるものの、定着率は良好である。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- 本校転出後の追跡調査としては実施していないが、副校長が過去から現在に至る職員の変遷について記録している。
⇒副校長は県立学校籍であることから、県立特別支援学校への転出者のその後の状況については、人事異動・各特別支援学校教頭会等での情報により一部把握している。
- 本校において教諭としての勤務経験者（人事交流対象者）の内、転出後、公立学校の管理職、主幹教諭、教育委員会指導主事等へ登用された者の割合は約 7.5% である。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

○特別支援教育、知的障害教育における研究推進校として地域に認知されており、毎年の公開研究会では、小・中学校及び特別支援学校教員、幼稚園・保育所担当者、教育委員会等関係者、大学生等、県内外から100名以上の参加者がある。研究の内容（提案）についても、公立学校等の現場での指導に参考になるとの意見を多数いただいている。

○毎年交流を行っている警察学校や近隣学校等においては、障害児・者理解推進のための機会として定着しており、交流による理解推進の深まりを期待されている。

○本校の設置規模は、大学教育学部の学生の定員等、設置者である大学教育学部の方針に基づくものであり、結果として小規模なものになっているが、全体として落ち着いた教育環境となり、大規模な公立校にはない学びやすい環境となっている。その点が、障害特性等により小集団の落ち着いた雰囲気を求める児童生徒（保護者）にとって非常に貴重な学びの場となっている。

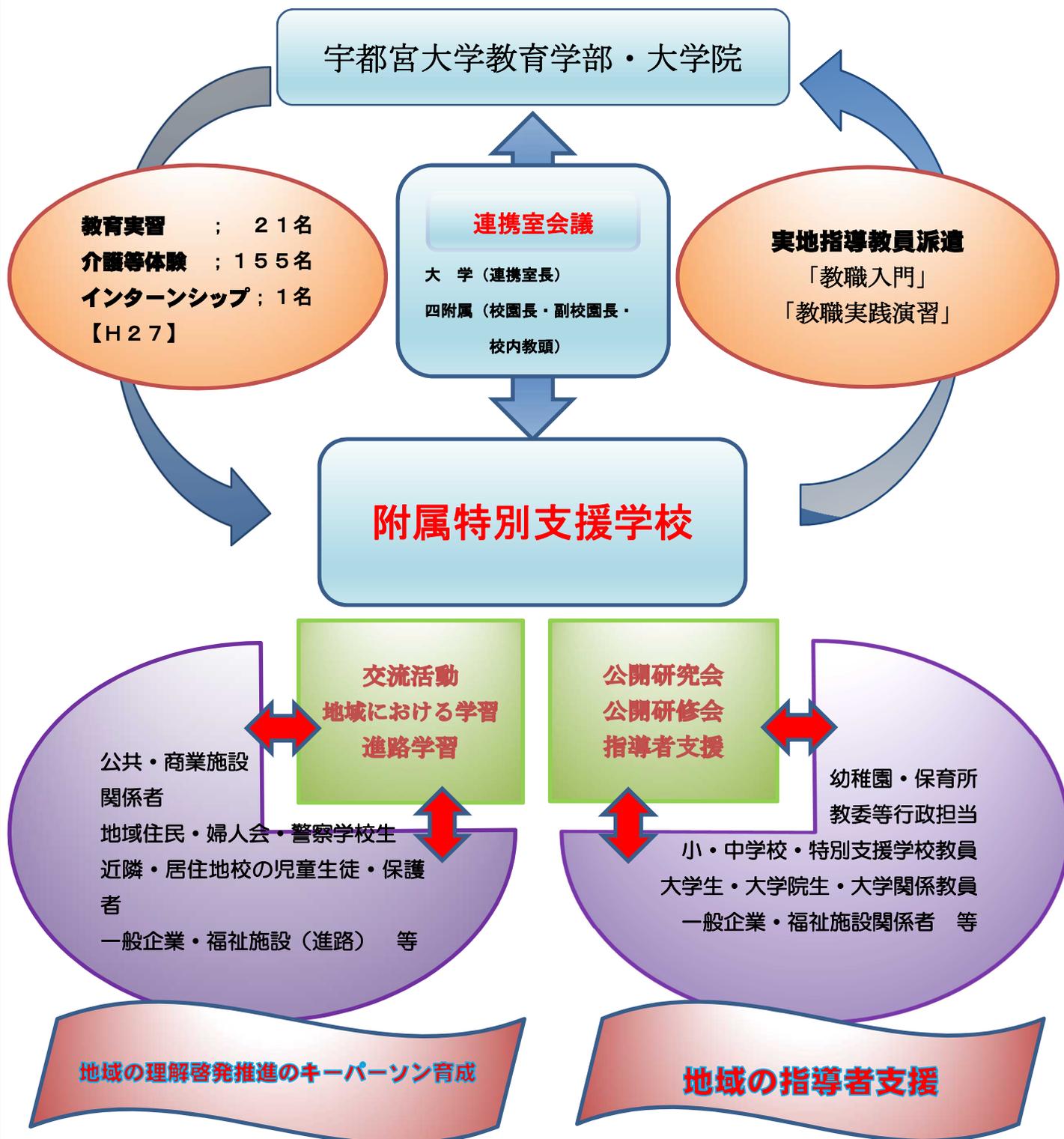
附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

○教員養成の役割を担うためには、その目的達成のために焦点化できる附属学校の設置と必要な体制がとれる組織が必要である。その点は、地域の対象となる児童生徒全てをカバーする体制と地域のセンター的機能を中心となってを担う役割がある大規模化した公立特別支援学校では、人材育成と研究推進に十分な成果を期待することは難しい。こうした設置目的を担った特別支援学校としての存在意義は大きい。

○人材育成と研究推進に特化することにより、組織を構成する教員集団の専門性もより高まり、附属学校としての成果をさらに高めることができると共に、公立校に戻ったときに、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターとして、また特別支援学校でもミドルリーダーとして指導に力を発揮できる人材として成長の成果が発揮されている。附属特別支援学校である本校は、次の世代の教員である大学生・大学院生の育成だけでなく、現職教員の成長をも促し、公立校の教育に貢献できる人材育成の場として貴重である。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

【将来の教師としての人材育成・研究活動への協力】



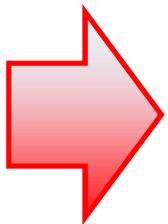
【地域社会への貢献】



学校現場のニーズに合った質の高い教員養成

高い教員就職率 全国4位（全体）

◎卒業生の多くが特別支援学校・特別支援学級・
小学校通常の学級の教員として活躍



◎特別支援教育の質の向上

◎地域でキーパーソンが広げる理解の輪

⇒障害者も生活しやすい地域社会作りのために
環境を整える



共生社会の実現に向けて